

ムーミンたちの、優しくてちょっと不思議な世界へようこそ!!

©Moomin Characters™

MOOMIN

ムーミンハウス
をつくる

組み立てガイド

4





1階の壁板と ダイニングテーブルを組み立てる



<http://deagostini.jp/app/moo/>

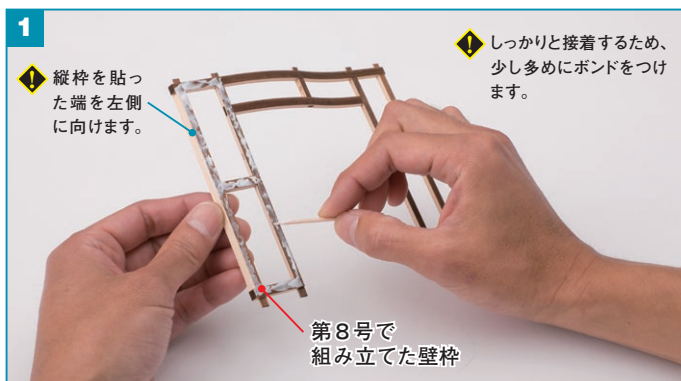


使う道具

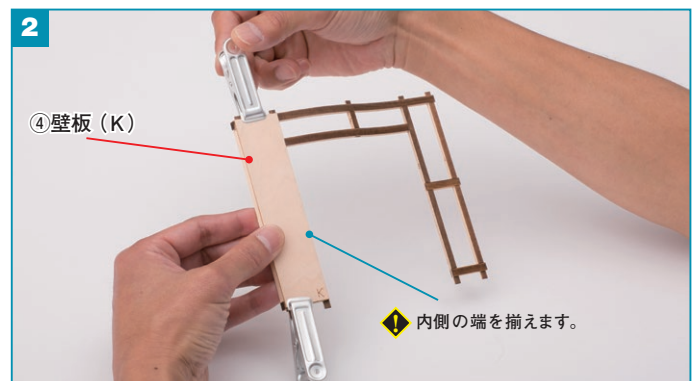
- 木工用ボンド
- 紙ヤスリ (240番)
- ようじ
- 洗濯バサミ
- 三角定規など
- 筆
- アクリル絵の具 (コバルトブルー、ホワイト、ランプブラック)
- 絵皿 (紙皿でも可)



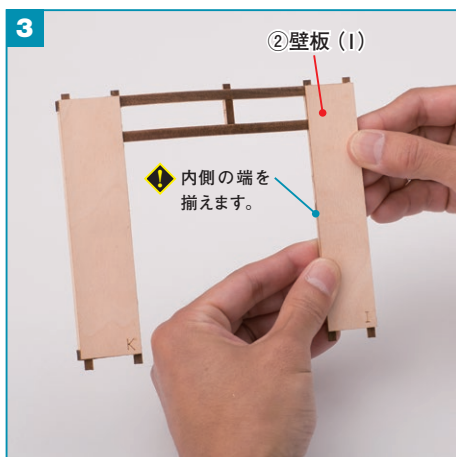
1階の壁板の組み立て



第8号で組み立てた壁枠を用意し、左側の写真の位置にまんべんなくボンドをつけます。しっかりと接着するため、少し多めにつけてください。



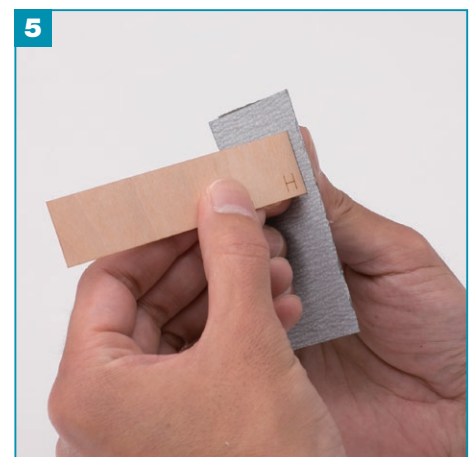
ボンドが乾く前に、④壁板 (K) を貼ります。内側の端を揃えて貼り、写真のように洗濯バサミなどで押さえて固定します。クリップでも構いませんが、壁板に大きな傷をつけないように注意してください。



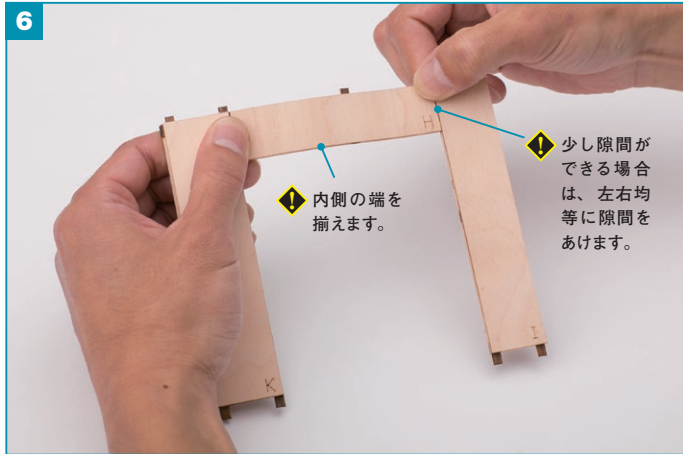
1～2と同じ要領で、右側に②壁板 (I) をボンドで貼ります。



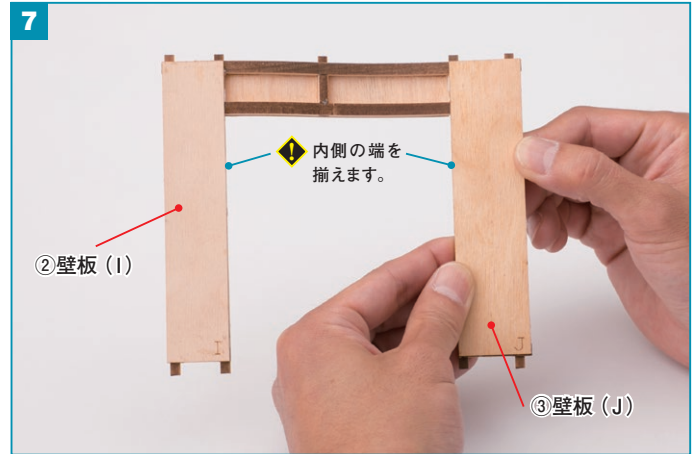
残りの部分に①壁板 (H) を当て、正しく入るか確認します。



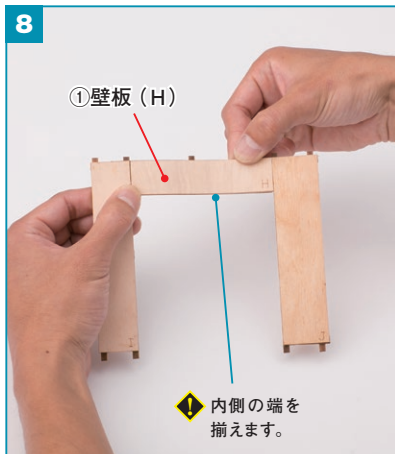
①壁板 (H) の左右が長くて入らない場合は、端を紙ヤスリで削って調整します。枠に当てて確認しながら、少しずつ削るのがコツです。



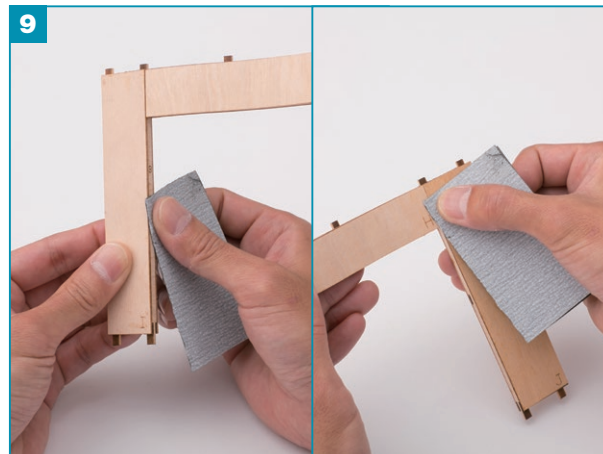
①壁板(H)が正しく入るようになったら、ボンドで貼り、洗濯バサミなどで固定します。



壁枠を裏返し、左側に②壁板(I)を、右側に③壁板(J)を、①～③と同じ要領で、それぞれボンドで貼ります。



さらに、④～⑥と同じ要領で、残りの部分に①壁板(H)をボンドで貼ります。



中央の開口部に壁板がはみ出している場合は、紙ヤスリをかけて削ります(左写真)。また、壁板の継ぎ目に段差がある場合も紙ヤスリをかけて削ります(右写真)。

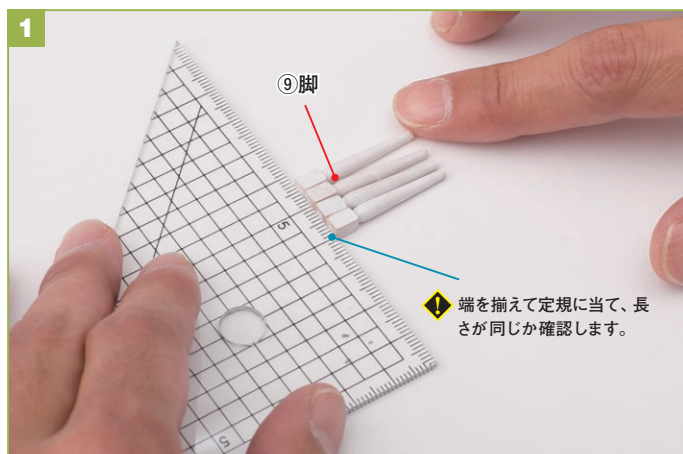
今号の
完成



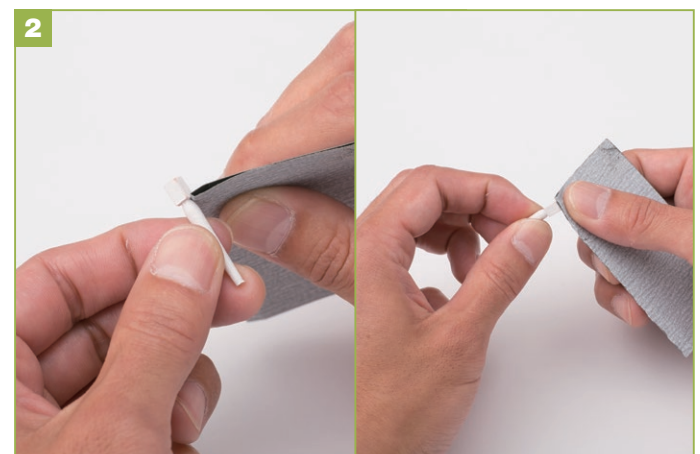
壁には後の号で壁紙を貼ります。
⑤化粧板(横)、⑥化粧板(縦)は、後の号で使うので大切に保管しておいてください。



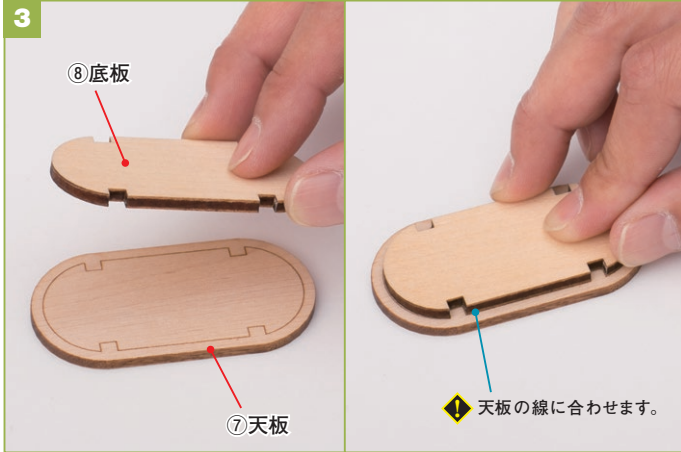
ダイニングテーブルの組み立て



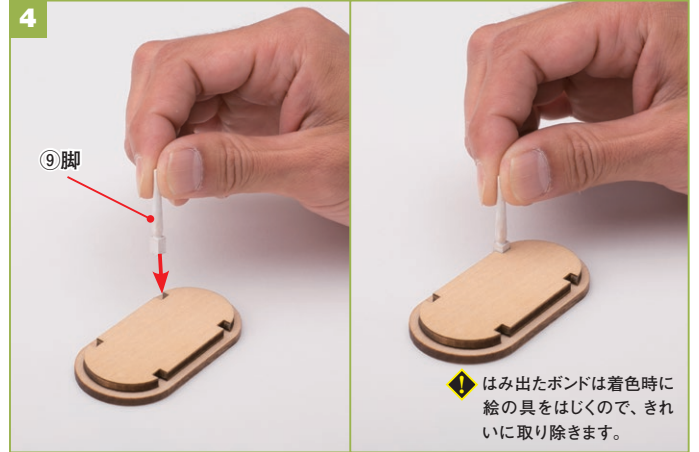
写真のように、4本の⑨脚の端を揃えて三角定規などに当て、長さが同じか確認します。長さが異なる場合は、細いほうの端を紙ヤスリで削って揃えます。



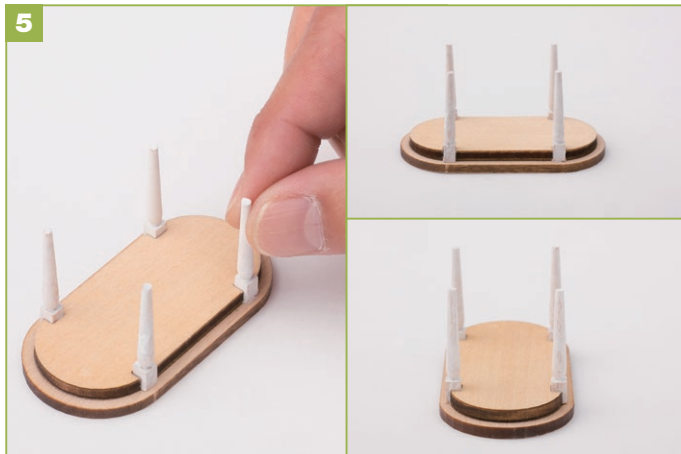
脚の凹凸などに白い塗料が溜まっている場合は、紙ヤスリをかけて取り除きます(左写真)。また、太いほうの平らな端は接着面になるので、凹凸がある場合は紙ヤスリをかけて平らにします(右写真)。



⑦天板の写真の面に、⑧底板をボンドで接着します。



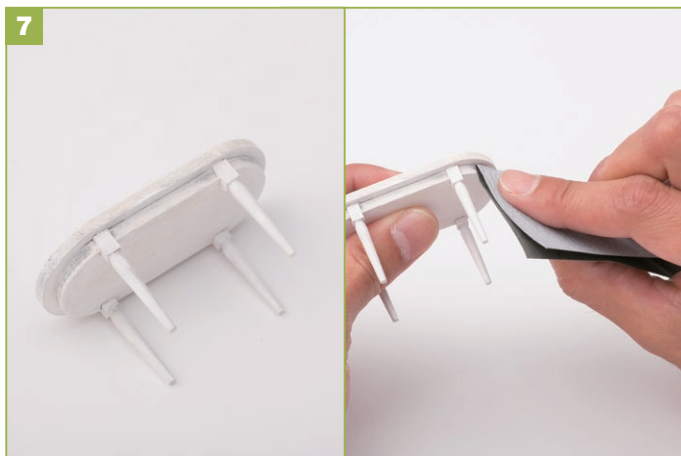
底板の切り込みに⑨脚をボンドで接着します。



同様に、残り3カ所の切り込みに⑨脚を1本ずつ、ボンドで接着します（左写真）。ボンドが乾く前に、それぞれの脚が垂直に立ち、真横から見て揃うよう、脚の向きを調整します（右写真）。このままボンドを乾燥させます。



テーブルを着色します。天板の表面や脚が白いのは、地の色が透けないようにすると、上塗りする絵の具の発色をよくするためです。白く塗られていない天板と底板の裏面や厚みに、ホワイト（白）の絵の具を水と1:1を目安に溶いて塗ります。



天板と底板の厚みには、成型の際の焦げ目があります。透けなくなるまで何度か塗りましょう。段差に絵の具が溜まった場合は、紙ヤスリをかけて取り除きます（右写真）。



ダイニングテーブルの上にはママの手料理
ママの愛情こもったお料理は、みんなをいつも笑顔にします。



※本キットには付属しません。

割合の目安

① ホワイト：③ コバルトブルー：② ランプブラック



絵皿などに、ホワイト(白)1に対してコバルトブルー(青)3の割合を目安に絵の具を出し、ランプブラック(黒)の絵の具を少しだけ加えます(左写真)。絵の具と同量の水を加え、よく混ぜ合わせましょう(右写真)。



不要な割り箸などに塗って、色合いを確認します。乾くと色が少し変わるので、乾燥させてから色合いを確認してください。少し薄いと感じたら黒を足し、濃くなりすぎたら白を足すなどして、好みの色合いに調整します。



⑧～⑨で用意した絵の具をテーブルに塗ります。一度で塗らず、何度か塗り重ねて仕上げます。まず、筆を一方向(写真では左右)に動かしながら塗ります。後で上塗りするので、色ムラがあっても大丈夫です。



同様に、底面や脚も塗ります。



絵の具を乾燥させ、全体に軽く紙ヤスリをかけます。着色でできた絵の具の細かな凹凸を取り除くためです。板の段差や脚のくぼみに絵の具が溜まっている場合も、紙ヤスリで取り除きましょう。



ヤスリをかけて出た粉を取り除いてから、再度全体を塗ります。⑩とは違う方向(写真では上下)に筆を動かすとよいでしょう。



地の色が見えなくなり、色ムラがなくなるまで何度か⑩～⑬を繰り返して仕上げます。

今号の
完成



ダイニングルームに置くテーブルの完成です。今は少し難しく感じても、慣れればスムーズに、上手に着色できるようになります。

✿ 保管のポイント

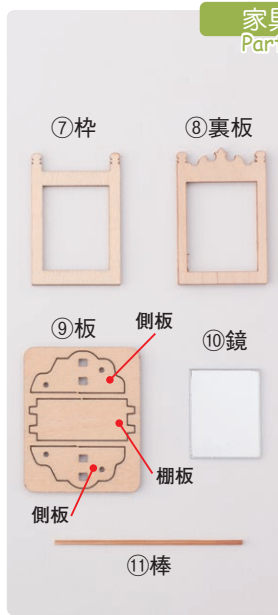
組み立て前や組み立て途中のハウス・家具パーツは、エアキャップなどにくるんで、個別に箱に入れるなどして保管するとよいでしょう。



1階の壁紙、天井の梁とバスルームの鏡を組み立てる



<http://deagostini.jp/app/moo/>



フィギュア
⑫スニフ

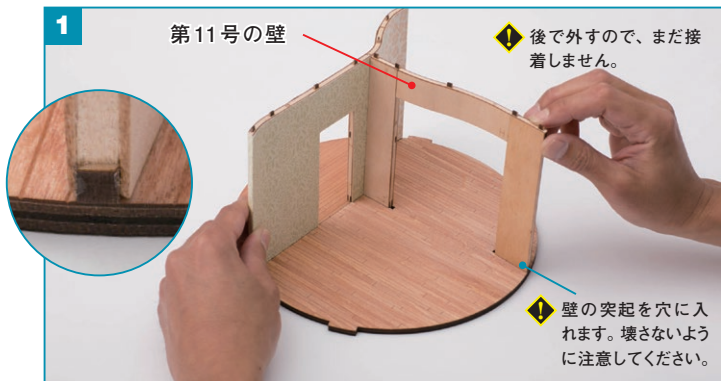
使う道具

- 木工用ボンド
- 紙ヤスリ (240番)
- ようじ
- カットングマット
- カッターナイフ
- 三角定規
- 両面テープ
- 筆
- アクリル絵の具 (ホワイト、バートシェナー、ローシェナー)
- 絵皿 (紙皿でも可)

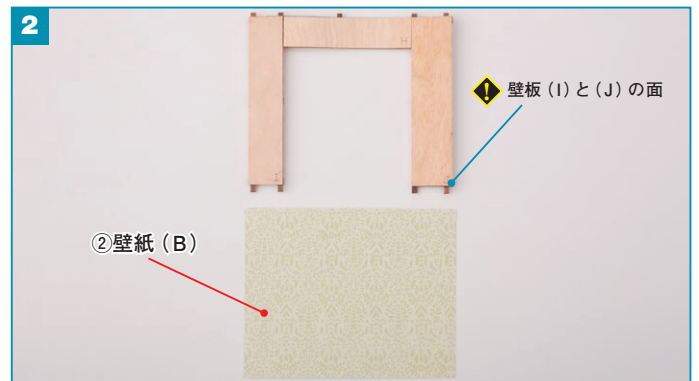
※⑩鏡には保護用のシートが貼ってあります。はがしてから組み立ててください。



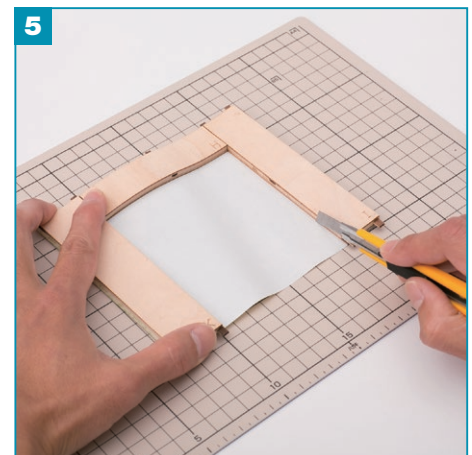
1階の壁紙、天井の梁の組み立て

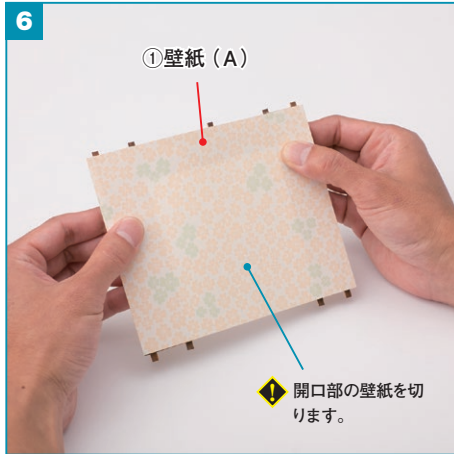


第10号と同じ要領で床と壁を組み、さらに第11号の壁を組み合ませます。左写真のように、壁と床の端に少しだけ隙間ができます。はみ出している場合は、壁を紙ヤスリで削って調整します。

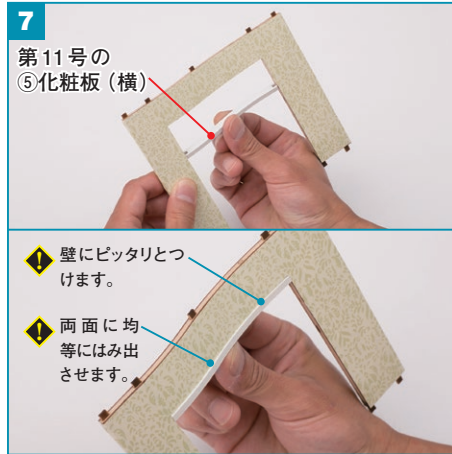


第11号の壁を外し、壁紙の貼り方を確認します。写真の壁板(1)と(J)の面には、②壁紙(B)を貼ります。

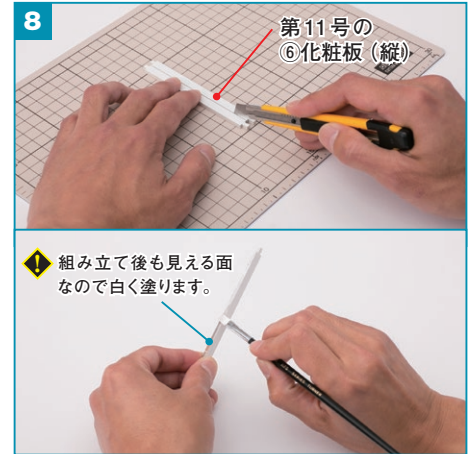




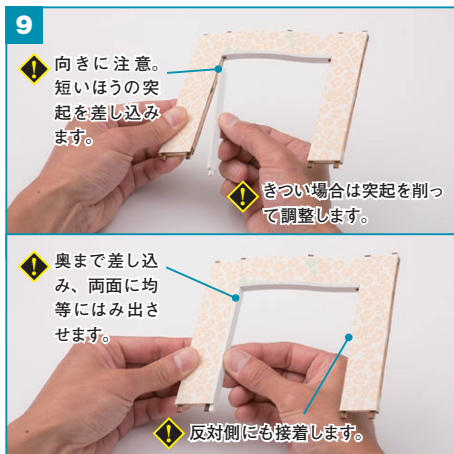
3～5と同じ要領で、反対側の面に①壁紙(A)を貼ります。左右にはみ出た壁紙を厚みに貼り、開口部の壁紙を切ります。



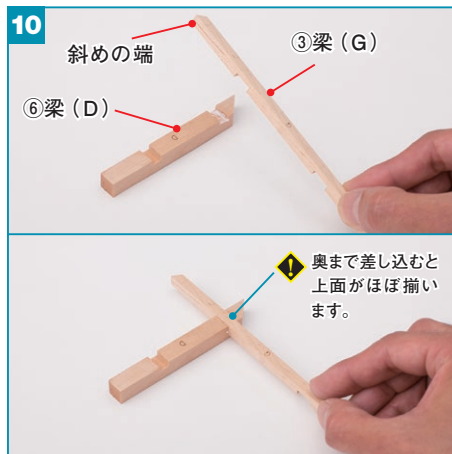
第11号で保管しておいた⑤化粧板(横)を用意し、開口部の上側にボンドで接着します。



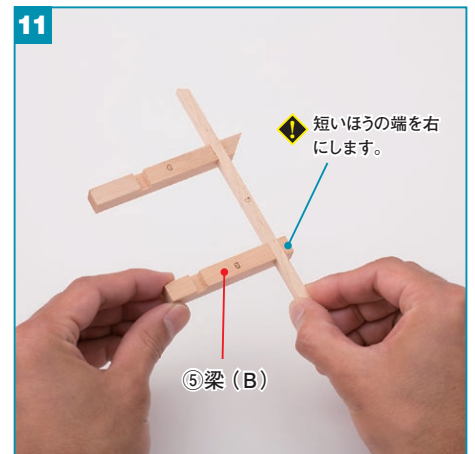
第11号の⑥化粧板(縦)の継ぎ目を切ります(上写真)。切り口を平らにしてから、切り分けた面に水と1:1の割合を目安に溶いたホワイト(白)の絵の具を塗ります。



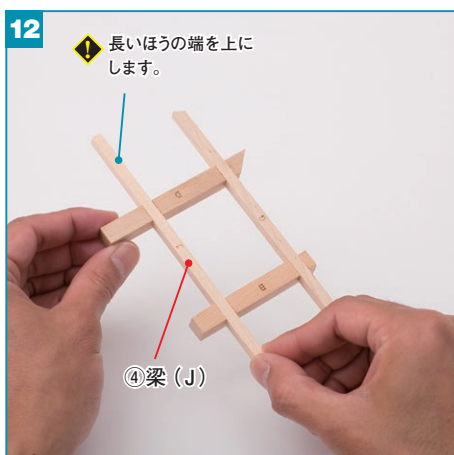
壁の開口部の左右に、化粧板(縦)をボンドで接着します。短いほうの突起を、化粧板(横)の切り込みに差し込んでください。



天井の梁を組み立てます。まず、⑥梁(D)と③梁(G)の写真的位置の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。



梁(G)の残りの切り込みに、⑤梁(B)の写真の位置の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。



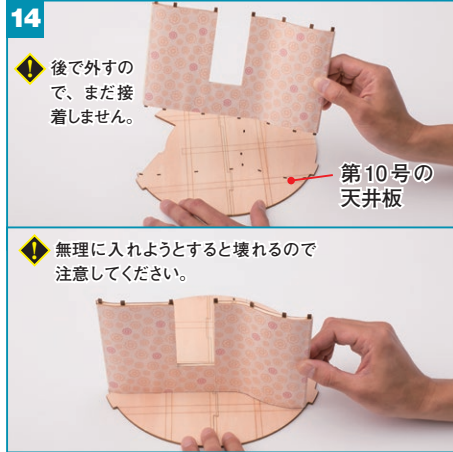
梁(B、D)の左側の切り込みに、④梁(J)の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。

STEPUp! ステップアップ 梁を自然な木のように仕上げてみよう

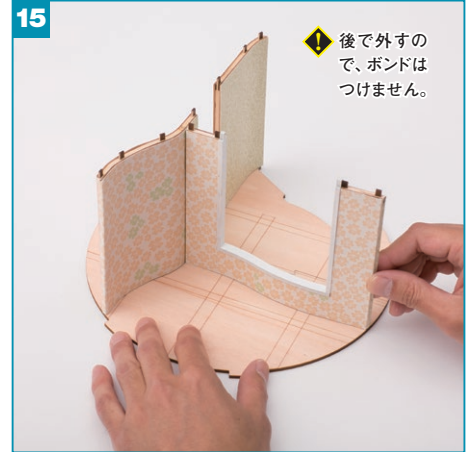
梁はこのままでも構いませんが、角を落として傷をつけると自然な木のような仕上がりになります。カッターナイフで削ぐようにして角を落とし、平らな面には刃先でひっかくように傷をつけるとよいでしょう。



パートシェナー(こげ茶色)の絵の具を約10倍の水で溶き、12までに組み立てた梁に塗ります。



第10号で組み立てた天井板を用意し、写真の位置に壁を仮組みします。ボンドをつけずに、壁の突起を天井板の穴に差し込んでください。



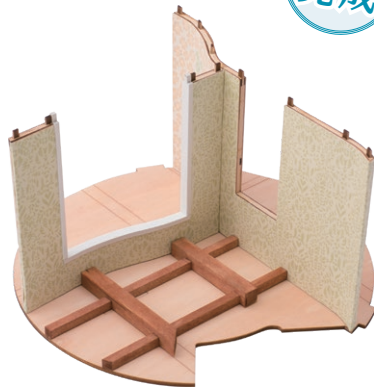
さらに、9までに組み立てた壁を仮組みします。



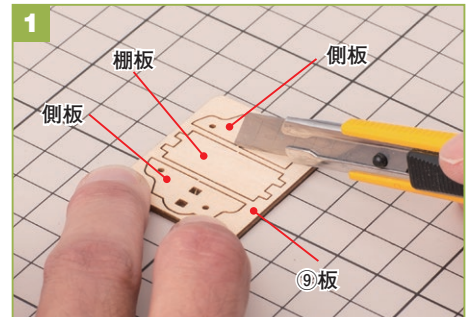
天井板の写真の位置に、梁をボンドで接着します。天井板の線になるべく合わせてください。

これで今号のハウスパーツの組み立ては終了です。次号でも梁を組み立てるので、壁は仮組みしたまま保管しておきましょう。

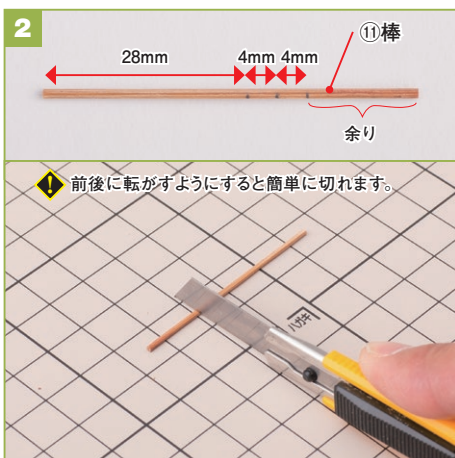
今号の完成



バスルームの鏡の組み立て



⑨板の継ぎ目をカッターナイフで切って、棚板、側板2枚を外します。切り口は紙ヤスリをかけて平らにします。



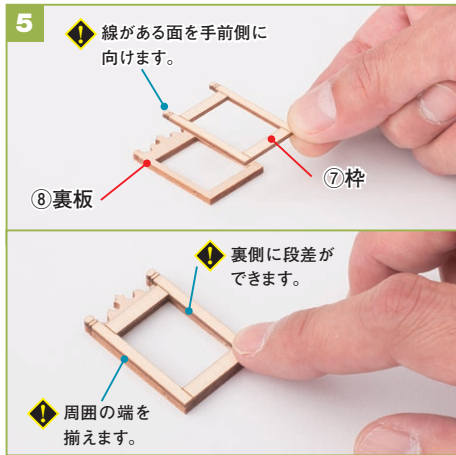
①棒を上写真のようにカッターナイフで切り分けます。カッターナイフの刃を当て、前後に転がすようにするとよいでしょう。



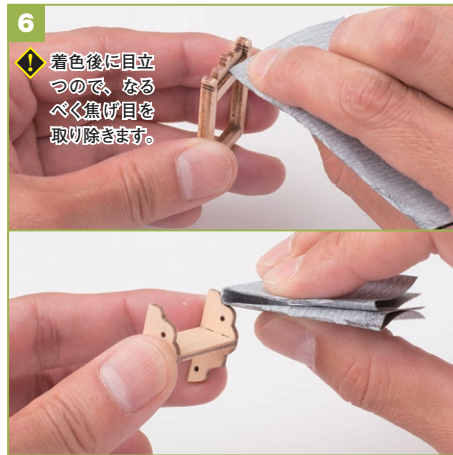
棚板の側面にボンドをつけてから、2つの突起を側板の写真の位置の穴に差し込みます。奥まで差し込んでください。



同様に、反対側に残りの側板をボンドで接着します。



⑧裏板に、⑦枠をボンドで接着します。枠は、線がある面を手前側に向けてください。



着色の準備として各パーツの焦げ目を取り除きます。枠と裏板の細かな部分(上写真)や、側板の曲面(下写真)は、折った紙ヤスリの角をうまく使いましょう。



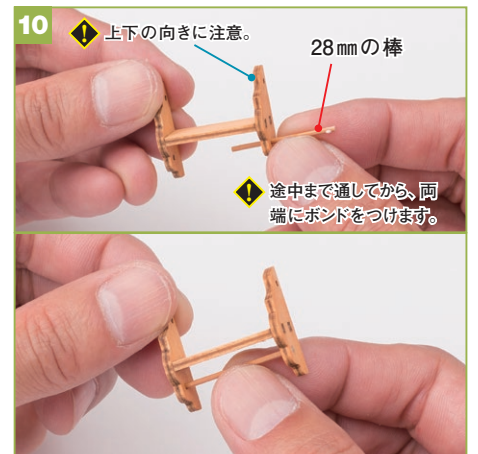
枠と裏板、棚板と側板、切り分けた棒を着色します。水2に対してローシェナー(茶色)1の割合を目安に、よく混ぜ合わせて着色します。



両面テープを用意して長さ約4.5cmに切ってから、定規を使って約2mm幅に切ります(上写真)。切り分けたテープを、下写真のように⑩鏡の周囲に貼ります。



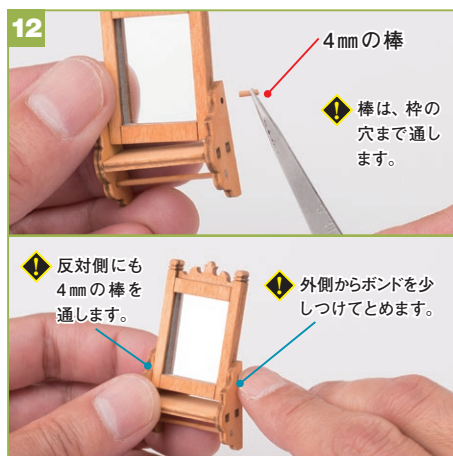
両面テープのシートをはがし、枠の裏板側からはめ込みます。



側板の写真の位置の穴に、28mmに切った棒を差し込み、反対側の側板の穴に通します。



写真のように、側板の間に鏡の枠を入れます。側板の穴と枠の側面の穴の位置を合わせてください。



側板の穴に4mmの棒を入れて枠の側面の穴に差し込みます。ようじの先で外側から少しボンドをつけて棒をとめます。同様に反対側に4mmの棒を通します。



鏡の枠は棒を通してあるので前後に動かすことができます。後の号で壁に取りつけましょう。

✿ 保管のポイント

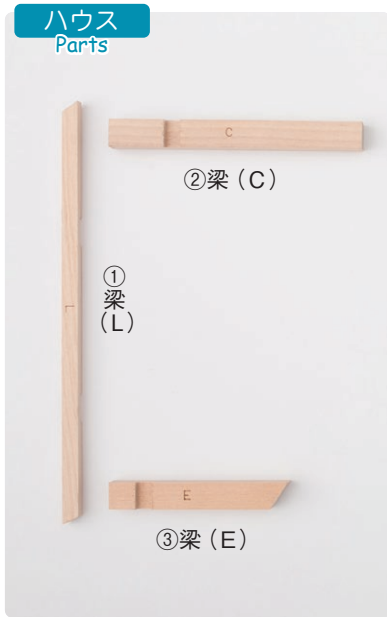
組み立て前や組み立て途中のハウス・家具パーツは、エアキャップなどにくるんで、個別に箱に入れるなどして保管するとよいでしょう。



1階の天井の梁と ダイニングチェアを組み立てる



<http://deagostini.jp/app/moo/>

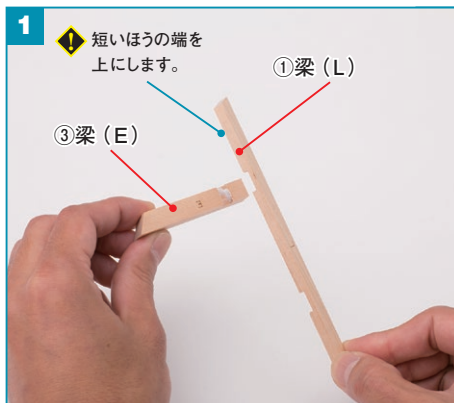


使う道具

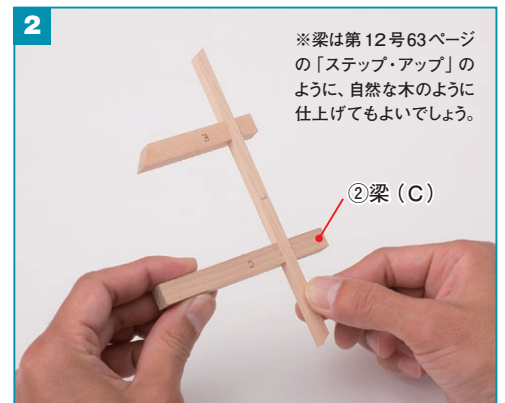
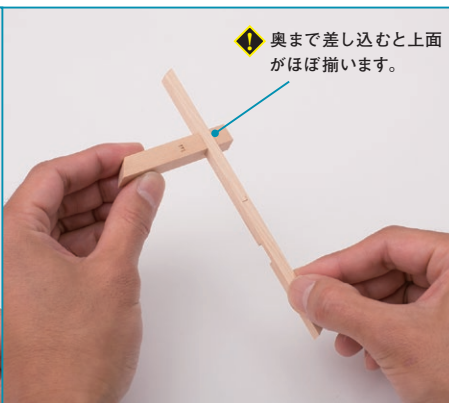
- 木工用ボンド
- 紙ヤスリ (240番)
- ようじ
- カッティングマット
- カッターナイフ
- ハサミ
- 三角定規
- 両面テープ
- シャープペンシル (鉛筆)
- 筆
- 絵皿 (紙皿でも可)
- アクリル絵の具 (バーントシェナー、ホワイト、コバルトブルー、ランプブラック)



1階の天井の梁の組み立て



③梁 (E) と①梁 (L) の写真の位置の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。



梁 (L) の残りの切り込みに、②梁 (C) の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。



パートシェナー (こげ茶色) の絵の具を約10倍の水で溶き、2までに組み立てた梁に塗ります。



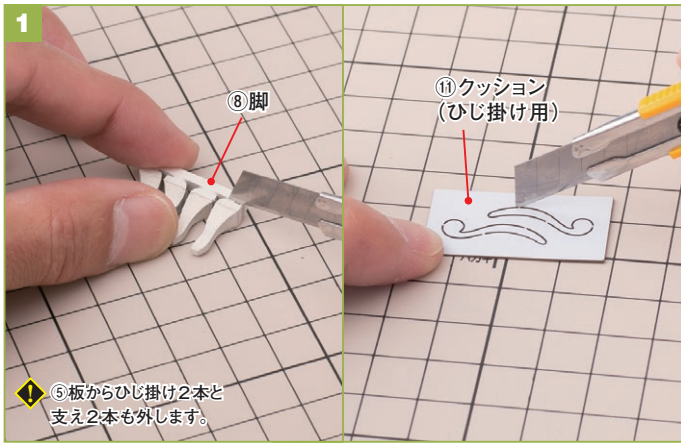
第12号で壁板を仮組みした天井板を用意し、写真の位置に梁をボンドで接着します。天井板の線になるべく合わせてください。

これで今号の組み立ては終了です。次号でも梁を組み立てるので、壁は仮組みしたまま保管しておきましょう。





ダイニングチェアの組み立て



❗ ⑤板からひじ掛け2本と支え2本も外します。

⑧脚の継ぎ目をカッターナイフで切って外します。切り口は紙ヤスリをかけて平らにしましょう。また、⑤板からひじ掛け2本と支え2本を外し、⑪クッション(ひじ掛け用)も外します。

STEP Up! ステップアップ 脚をより滑らかに美しく

[ヤスリかけ後] [ヤスリかけ前]

❗ 外側にふくらんだ面(7参照)に丸みをつけます。

脚の組み立て後に外側になる面(外側にふくらんだ面)の角を落として丸みをつけると、仕上がりがより優美に。7を参照して外側を確認してから、紙ヤスリをかけて丸みをつけましょう。



❗ 後で外すので、まだボンドで接着しません。

④背板

⑥座面(白い面を上に向け)

❗ 切り込みの奥まで差し込み、底面を揃えます。

⑥座面と④背板を、ボンドをつけずに合わせます。座面を左写真の向きで持ち、奥側の切り込みに背板を差し込みましょう。このままだと右写真のように、背板が垂直に立ちます。



❗ 座面の上面の位置に目印線を引きます(反対側も)。

背板が斜め後ろに倒れるように工夫します。まず、背板の柱、座面の上面の位置に、シャープペンシル(鉛筆)で目印の線を引きます。

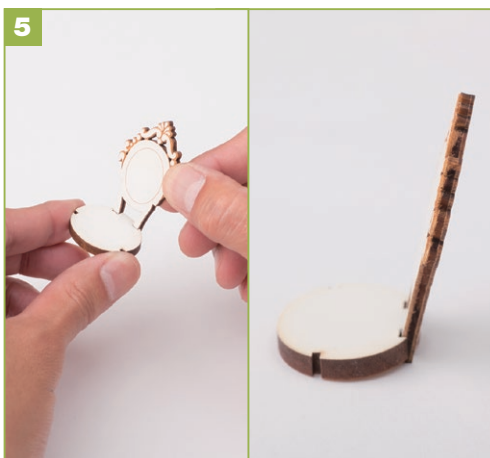


❗ 難しい場合は、紙ヤスリで削ってください。

❗ 目印線から端に向かって斜めにします。

❗ 端が約1mm低くなるように削ります。

目印線から端に向けて、下写真のように斜めに削ります。カッターナイフの刃を押さえ、少しずつ削るとよいでしょう。削りすぎに注意してください。



再度、座面と背板を組み合わせ、背板が斜めになることを確認したら(右写真)、ボンドで接着します。

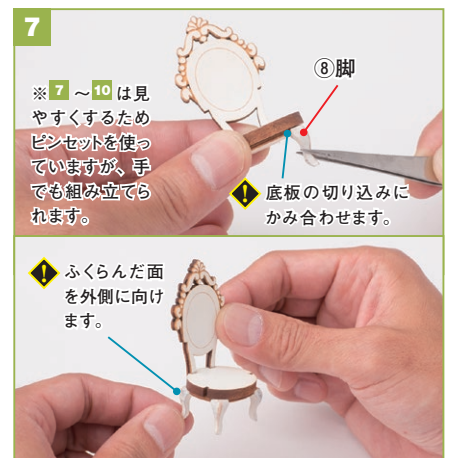


❗ 切り込みを覆っても大丈夫です。

❗ 周囲に均等に隙間をあけます。

※見やすくするため、背板を外しています。

座面の底面に、⑦底板をボンドで接着します。下写真のように、周囲に均等に隙間をあけてください。



※7~10は見やすくするためピンセットを使っていますが、手でも組み立てられます。

❗ 底板の切り込みにかみ合わせます。

❗ ふくらんだ面を外側に向けます。

底板の四隅の段差に⑧脚を1本ずつ、ボンドで接着します。ふくらんだ面を外側に向けましょう。



STEP UP!
ステップアップ

脚の上面の角が出た場合は丸みをつけてより優美に

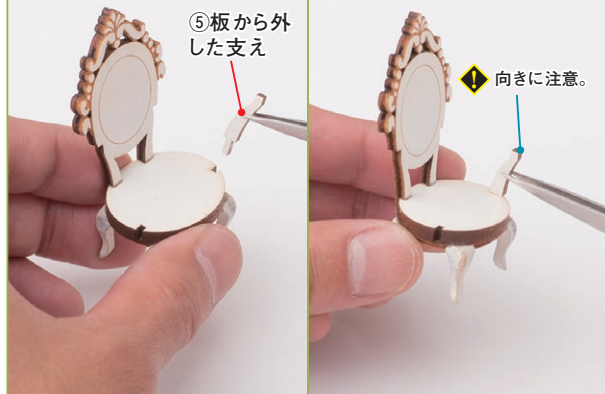


[ヤスリかけ前]

[ヤスリかけ後]

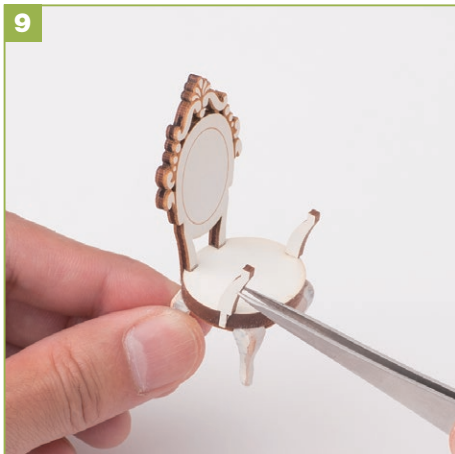
組み立て後の底面からは、脚の角が出る場合もあります（左写真の赤丸部）。脚の外側の面に丸みをつけたのと同じように、この部分を紙ヤスリで削って丸みをつけると、より優美な形に仕上がります。

8



座面の写真の位置の切り込みに、⑤板から外した支えをボンドで接着します。

9



同様に、反対側に残りの支えをボンドで接着します。

10



次に、⑤板から外したひじ掛をボンドで接着します。支えの上端をひじ掛けの穴に差し込み、ひじ掛けの奥側は背板の段差とかみ合わせます。

11



同様に、反対側に残りのひじ掛を接着します。

12



⚠ 後で塗る絵の具のため、白く塗ります。

着色します。まず、こげ茶色になっているパーツの厚みを白く塗ります（上写真）。ホワイト（白）の絵の具を水と1:1を目安に溶いて透けなくなるまで塗り、背板の彫刻などに絵の具が溜まった場合は、乾いてから紙ヤスリをかけて取り除きます（下写真）。

13



⚠ 不要な割り箸などに塗って乾燥させ、色合いを確認します。なるべく第11号でつくったダイニングテーブルと色を合わせましょう。

第11号でつくったダイニングテーブルと同じ色に塗ります。ホワイト（白）1に対してコバルトブルー（青）3の割合にランプブラック（黒）の絵の具を少しだけ加えて同量の水で溶き、一度塗ります。

14



第11号のダイニングテーブルと同じ要領で、絵の具を乾燥させてから軽く紙ヤスリをかけて塗る作業を何度も繰り返して仕上げます。



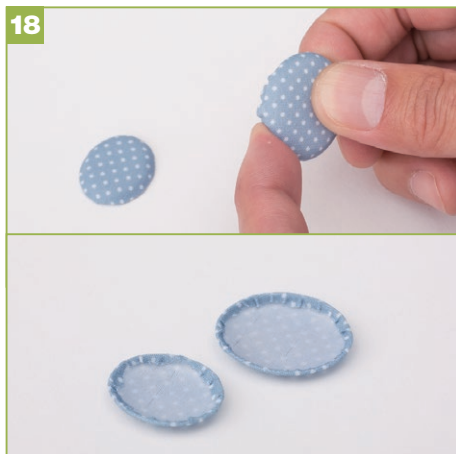
座面などに貼るクッションをつくります。まず、⑫布を約40mm幅に切り(上写真)、裏面に隙間なく両面テープを貼って覆います。



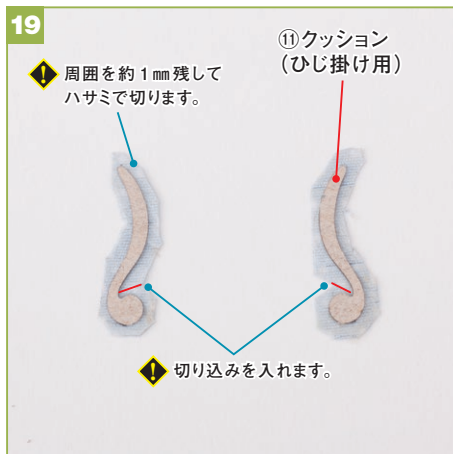
両面テープのシートをはがし、隙間をあけて⑨クッション(座面用)、⑩クッション(背もたれ用)、切り分けた2枚の⑪クッション(ひじ掛け用)を貼ります。



クッション(座面用)、クッション(背もたれ用)の周囲を約3mm残してハサミで切り、布を貼ります。シワができないように伸ばしながら、少しずつ貼りましょう。



端まで貼ったら、裏面(くぼんだ面)に折り返して貼ります。シワができないように少しずつ折り返しましょう。



⑪クッション(ひじ掛け用)は、周囲を約1mm残してハサミで切り、写真の赤線部分に切り込みを入れます。



クッション(ひじ掛け用)の布を折って厚みに貼り、さらに裏面に折り返して貼ります。折り返しにくい場合は、余分な布を切ったり、切り込みを増やしてください。



写真のように、クッション(座面用)を座面に、クッション(ひじ掛け用)をひじ掛けの上面に、それぞれボンドで貼ります。



さらに、背板に、クッション(背もたれ用)をボンドで貼ります。

今号の
完成



ダイニングテーブルとセットになるチェアの完成です。次号で同じものをもう1脚つくります。

✿ 保管のポイント

組み立て前や組み立て途中のハウス・家具パーツは、エアキャップなどにくんで、個別に箱に入れるなどして保管するとよいでしょう。



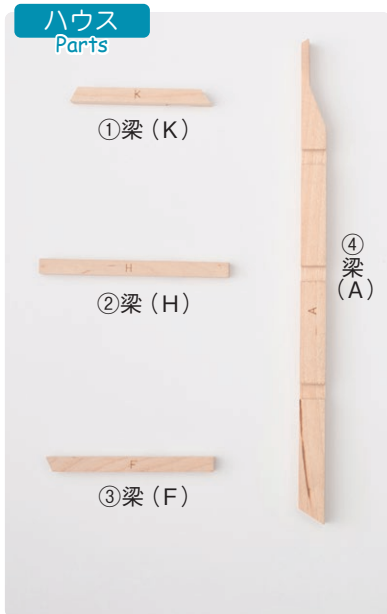
1階の天井の梁と



ダイニングチェアを組み立てる



<http://deagostini.jp/app/moo/>

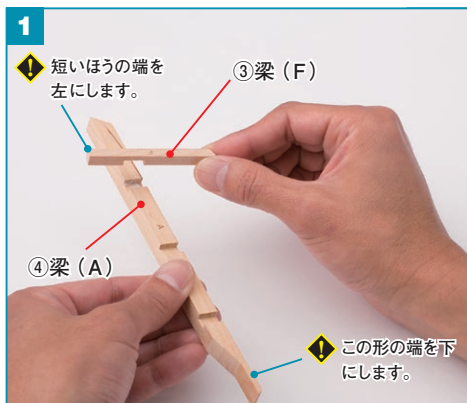


使う道具

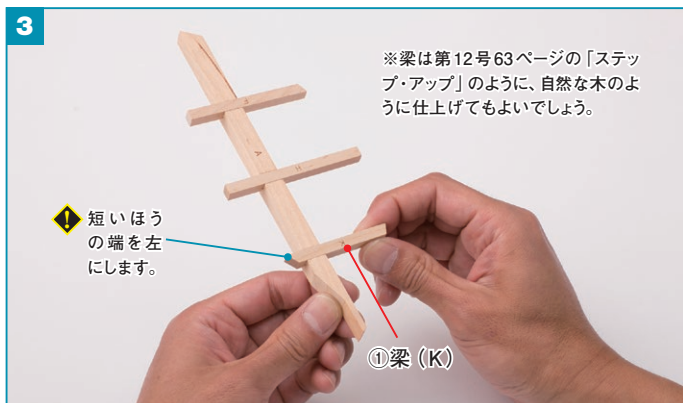
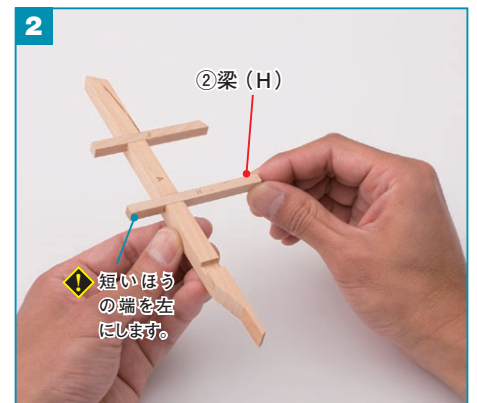
- 木工用ボンド
- 紙ヤスリ (240番)
- ようじ
- カッティングマット
- カッターナイフ
- ハサミ
- 三角定規
- 両面テープ
- シャープペンシル (鉛筆)
- 筆
- 絵皿 (紙皿でも可)
- アクリル絵の具 (バーントシェナー、ホワイト、コバルトブルー、ランプブラック)



1階の天井の梁の組み立て



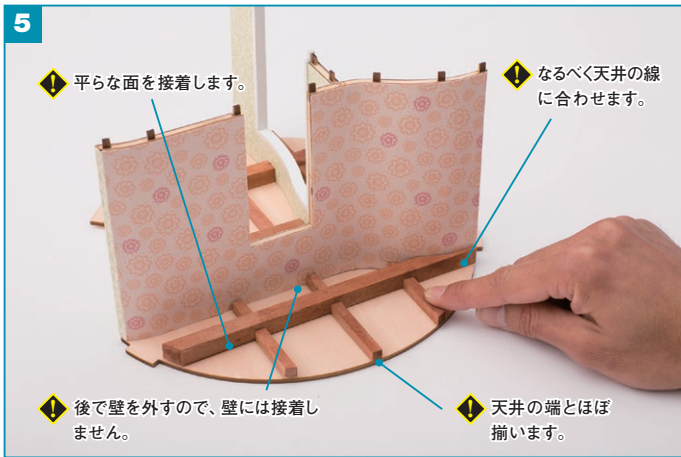
③梁 (F)と④梁 (A)の写真の位置の切り込みをかみ合わせ、ボンドで接着します。



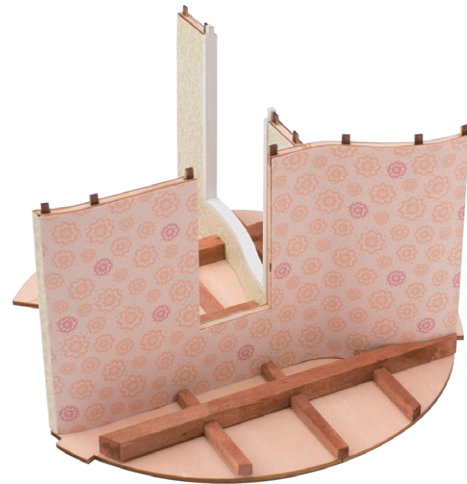
梁 (A)の残りの切り込みに、①梁 (K)をかみ合わせ、ボンドで接着します。



バーントシェナー (こげ茶色)の絵の具を約10倍の水で溶き、③までに組み立てた梁に塗ります。



壁を仮組みした天井を用意し、写真の位置に梁をボンドで接着します。天井の線になるべく合わせてください。

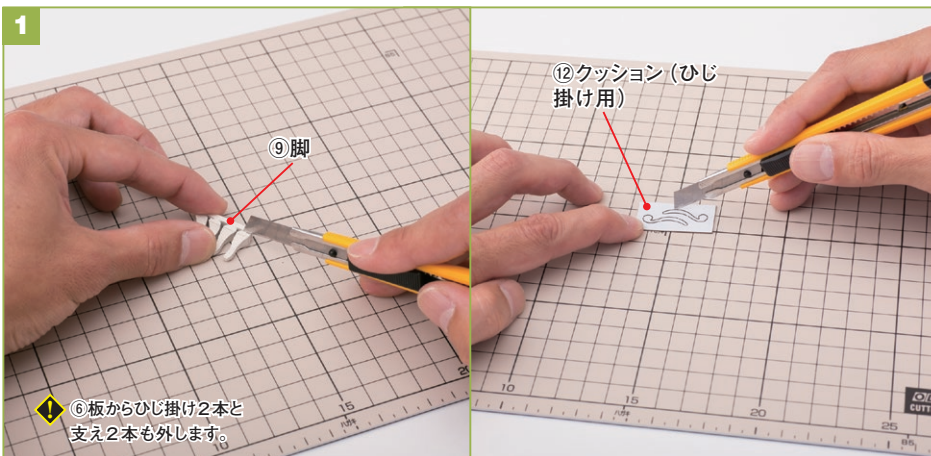


今号の
完成

これで今号の組み立ては終了です。1階の天井に梁が揃いました。壁は後の号で固定します。



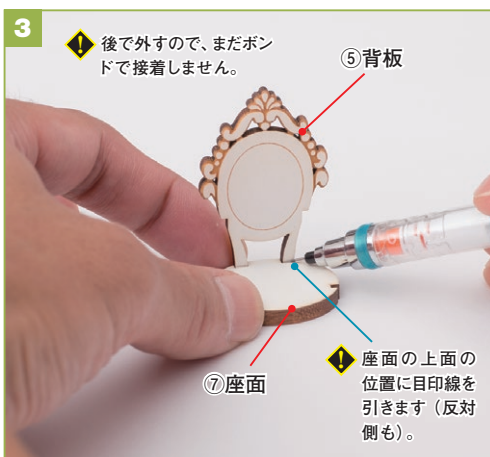
ダイニングチェアの組み立て



⑨脚の継ぎ目をカッターナイフで切って外します。また、⑥板からひじ掛け2本と支え2本を外し、⑫クッション(ひじ掛け用)も外します。



切り口に紙ヤスリをかけて平らにします。脚の外側のふくらんだ面は、角を落として丸みをつけてもよいでしょう(第13号67ページの「ステップ・アップ」参照)。



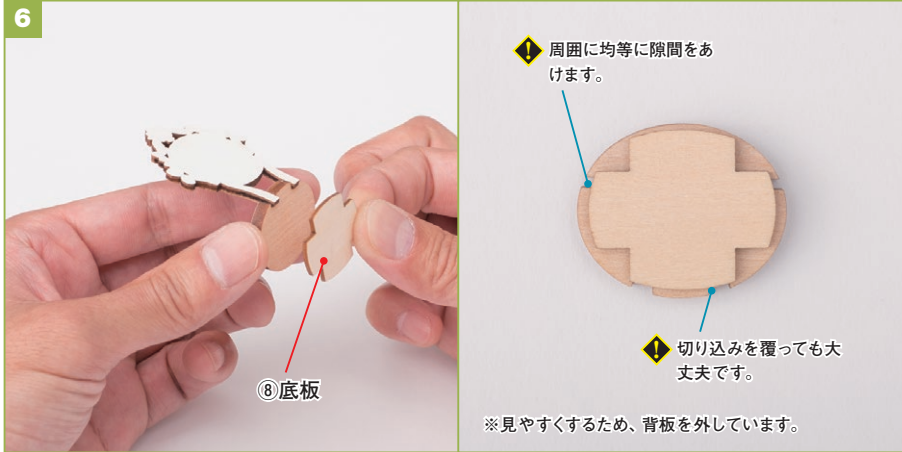
背板が斜め後ろに倒れるように工夫します。まず、⑦座面と⑤背板を、ボンドをつけずに合わせ、背板の柱、座面の上面の位置に、シャープペンシル(鉛筆)で目印の線を引きます。



目印線から端に向けて、下写真のように斜めに削ります。カッターナイフの刃を押さえながら、少しずつ削るとよいでしょう。削りすぎに注意してください。



座面と背板をボンドで接着します。第13号67ページの**5**を参照して、背板を斜め後ろに倒して接着してください。



座面の底面に、⑧底板をボンドで接着します。右写真のように、周囲に均等に隙間をあけてください。



底板の四隅の段差に脚を1本ずつ、ボンドで接着します。ふくらんだ面を外側に向けましょう。



座面の写真の位置の切り込みに、⑥板から外した支えをボンドで接着します。



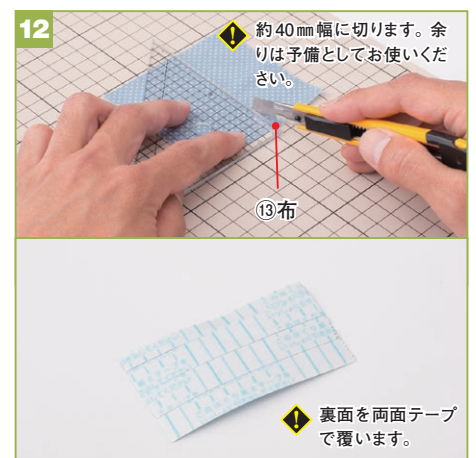
次に、⑥板から外したひじ掛けをボンドで接着します。支えの上端をひじ掛けの穴に差し込み、ひじ掛けの奥側は背板の段差とかみ合わせます。



ホワイト(白)の絵の具を水と1:1を目安に溶き、こげ茶色になっているパーツの厚みを白く塗ります。背板の彫刻などに絵の具が溜まった場合は、乾いてから紙ヤスリをかけて取り除きます。



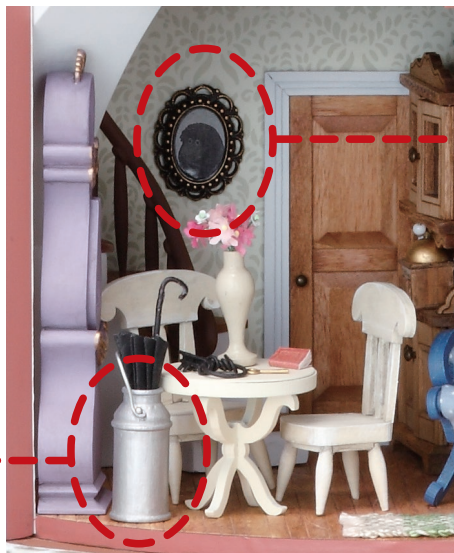
第13号と同じ要領で着色します。ホワイト(白)1に対してコバルトブルー(青)3の割合にランプブラック(黒)の絵の具を少しだけ加えて同量の水で溶き、何度か塗って仕上げましょう。



座面などに貼るクッションをつくります。まず、⑬布を約40mm幅に切り(上写真)、裏面に隙間なく両面テープを貼って覆います。

ミルク缶

ムーミントロールが運んできた
ミルク缶でしょうか。今ではパ
パの傘立てになっています。



ご先祖さまの絵

花のような額縁に飾られているご
先祖さまの絵。ムーミン一家を優し
く見守っているようです。

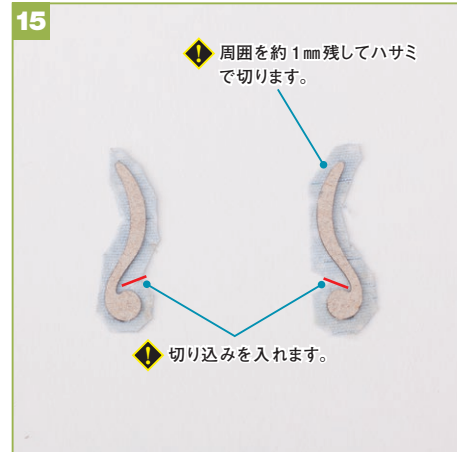
※本キットには付属しません。



両面テープのシートをはがし、隙間をあけて⑩クッション(座面用)、⑪クッション(背もたれ用)、切り分けた2枚の⑫クッション(ひじ掛け用)を貼ります。



クッション(座面用)、クッション(背もたれ用)の周囲を約3mm残してハサミで切り、布を貼ります。シワができないように伸ばしながら少しずつ貼り、裏面(くぼんだ面)に折り返しましょう。



クッション(ひじ掛け用)は、周囲を約1mm残してハサミで切り、写真の赤線部分に切り込みを入れます。



クッション(ひじ掛け用)の布を折って厚みに貼り、さらに裏面に折り返して貼ります。折り返しにくい場合は、余分な布を切ったり、切り込みを増やしてください。



ひじ掛けと座面、背板に、各クッションをボンドで貼ります。

今号の完成

2脚目のチェアが完成。テーブルと2脚のチェアのダイニングセットができ上がりました。



※ 保管のポイント

組み立て前や組み立て途中のハウス・家具パーツは、エアキャップなどにくるんで、個別に箱に入れるなどして保管するとよいでしょう。